

白川町庁舎建設基本計画策定及び基本設計業務公募型プロポーザル 審査講評

白川町庁舎建設基本計画策定及び基本設計業務公募型プロポーザルに際し、実績のある 10 社からの参加表明をいただき、評価委員会として何より先ず深く感謝いたします。

白川町役場の現庁舎は、築後 63 年が経過し、耐震性能の不足、土砂災害特別警戒区域内、施設の老朽化、窓口機能の分散化といったさまざまな課題を抱えています。このような課題を解消し、庁舎の安全性や危機管理、災害対応機能を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図り、町民に親しまれる白川らしい庁舎を実現するため、高い技術力及び豊富な経験等を有する優れた設計者を選定することを目的として公募型プロポーザルが実施されました。

6 月 22 日に開かれた第一次評価委員会において、各応募者の実績やこの事業に対する適格性などを慎重に検討した結果、参加表明 10 社のうちの 5 社を選定して、技術提案書の作成を依頼しました。7 月 20 日に 5 社のすべてから提案書の提出を受け、7 月 28 日、白川町町民会館において一般公開でプレゼンテーション並びにヒアリングを行いました。同日、非公開で開催した第二次評価委員会では、匿名とした 5 社それぞれの質疑回答を含めた技術提案の内容を吟味し、全評価委員があらかじめ定められた審査基準に従って個別に評価を行い、その結果を集計したものに基づいて、各案の評価すべき点、懸念される点などについて各委員の評価の視点を述べ、その後候補者を選考する議論を行いました。

技術提案では、「業務の取り組み姿勢及び実施体制」及び特定テーマに対する具体的な提案が求められました。第二次評価委員会では、「業務の取り組み姿勢及び実施体制」については、町民の声を取り入れるワークショップのあり方や木材調達の実施体制が主要な論点となりました。テーマ 1「防災拠点となる安全・安心な庁舎」では、全社が浸水危険性への配慮から、1 階を鉄筋コンクリート造、2 階以上の主要構造を木造としており、評点差は小さかったものの、発災時の計画などが主要な論点となりました。テーマ 2「利用者にとって使いやすい庁舎」では、町民に開かれた庁舎の配置、駐車場とそのアクセス、執務室の柔軟性、周辺住宅への配慮などが論点となりました。テーマ 3「自然と調和した白川らしい庁舎」では、主要構造部の木造の取り扱い方、耐火構造のあり方などが主要な論点となり、議論が交わされました。

審議の結果、いずれの項目においても評点が高く、総合的な評価点が最も高かった株式会社石本建築事務所名古屋オフィスを受注候補者とし、ついで評価の高かった株式会社シーラカンズアンドアソシエイツを次点候補者とするを、評価委員の満場一致により決定しました。

受注候補者となった株式会社石本建築事務所名古屋オフィスの提案は、県道に沿った長い間口全面を、高さを抑えた屋根と深い軒による「白川テラス」として歩道空間と一体的に整備し、町の賑わいの中心となる庁舎づくりを目指した点が高い評価を得ました。また、住宅サイズの一般流通材を組み合わせ、木をとことん使い切ろうとする地域完結型の木造庁舎への取り組み姿勢も評価されました。周辺施設との連携を含め、町民や町職員とともに庁舎を作っていこうとする熱意あふれ

る姿勢についても評価委員一同高く評価し、新たな庁舎づくりを依頼するにふさわしいと考えました。一方で、2階の耐震要素をふくめた木造のあり方、別用途敷地の取り扱い、北側駐車場(広場)と庁舎の連携などの課題も指摘され、今後は特定者が、関係者と十分にコミュニケーションを深めて、新たな庁舎づくりのパートナーとして、大いに力量を発揮してくださることを祈念します。

次点候補者となった株式会社シーラカンズアンドアソシエイツの提案は、周辺住宅への影響を最小限にするため西側にコンパクトに庁舎を配置し、「木の大屋根」によって覆われた開放的な内部空間が魅力的でした。また、設計者としての建築空間に対する考え方、すべての関係者と体感できる対話を重視して設計を柔軟に進めていこうとする姿勢についても高い評価を得ました。一方で、2階の屋根以外の部分は鉄筋コンクリート造であり、白川らしい木造庁舎とは呼べないのではないかという意見や、複雑な屋根形状に対する技術上の懸念などもあがり、こうした疑問点を修正した場合、提案の基本的概念が崩れかねないのではないかという議論もあり、惜しくも次点候補者に留まりました。

残る3社の提案もそれぞれに魅力があり、下記のような議論が交わされました。

A社の提案は、木造庁舎等の経験に裏付けられた木造への取り組みとその利用方法や、積極的なワークショップによる対話の重視などにおいて最も高い評価を得ましたが、駐車場へのアクセス、執務空間のフレキシビリティ、屋根の形状等において疑念が示され、入選に至りませんでした。

B社については、周辺に配慮したコンパクトな庁舎の配置、庁舎前面に設けた「まちの縁側」とその前に広がる「みんなの広場」、また、山並みと調和した外観などが評価されました。一方で、県道側への顔の見せ方や執務空間の配置などについての懸念が指摘されました。

C社については、ワンフロアにまとめた執務室の配置や、災害発生時のシナリオを想定した対応策などについて高い評価がありましたが、1階をほぼピロティ駐車場とした3階建てとなっており、県道側からの景観や賑わいの表出といった点で疑念があげられました。

プロポーザル参加者には、短いスケジュールにも関わらず、白川町新庁舎整備基本方針を丁寧に読み解き、魅力的かつ完成度の高い力のこもった技術提案書を提出いただきました。改めて敬意を表するとともに、各社の更なるご発展とご活躍をお祈りいたします。

令和3年8月

白川町庁舎建設基本計画策定及び基本設計業務プロポーザル評価委員会

恒川 和久(名古屋大学大学院工学研究科教授)

松井 匠(岐阜県立森林文化アカデミー講師)

臼井 直之(岐阜市立女子短期大学専任講師)

安江 雅平(白川町庁舎整備検討委員会委員)

佐伯 正貴(白川町副町長)

安江 章(白川町総務課長)